郷土かわらばん

身近な神社を知る　駒形神社

（駒形神社　千葉県流山市東深井３１３）

森の図書館の近くの神社の一つが、駒形神社です。古くある神社ですが、その由来をご存知でしょうか？設置されている碑文には以下の通り、由来が記されています。

駒形神社の由来

かつてこの一帯には官営の野馬放牧場である小金牧が設置されており、古より緑豊かな良馬の産地として知られておりました。

御社伝によりますと、八幡太郎源義家公が奥州出陣の折に立ち寄られ、愛馬を繋ぎ憩われたとされる椋の木の後裔（こうえい）が、鳥居左手に残されております。

誉田別尊（ほんだわけのみこと）を御祭神として御祀り上げ上げます。

駒形神社が御創建されたのは応永六（西暦一三九九）年九月二十九日のことと伝えております。

以来六百有余年に亘り、駒形神社の大神様は地域の産土神様として氏子崇敬者の人々の厚い敬神の念を受け、その御神威、御神徳を今日に伝えております。

平成十三年元旦

（駒形神社　碑文より引用）

由来の碑石

源義家の奥州出陣は一〇八三年の後三年の役の頃です。椋の木は代替わりをしましたが、今でも後裔の椋の木が茂る様子は感慨深いものがありますね。

境内の馬の像

協力：駒形神社

発行年月日
2017年
7月1日

発行
流山市立
森の図書館
指定管理者
株式会社すばる

通番：002

郷土資料コーナー2

流山市に県庁が？過去に存在した東葛県

葛飾県庁ができるまで

現在の千葉県が配置されるまで、流山市に県庁があったことをみなさんはご存知でしょうか？

今回は流山市立中央図書館及び流山市立博物館の敷地内にある葛飾（かつしか）県庁跡地について調べてみました。

時代は明治初期、新政府による統一がされ始めた頃です。

慶応四年（一八六八年）八月、下総知県事に熊本藩士・佐々布貞之允（さそうさどのじょう）が任命され、下総知県事に熊本藩士・鹿子木弥左衛門（かのこぎやざえもん）がそれぞれ任命されました。

同年十二月には、佐々布貞之允に変わり、豊後佐伯藩士・水筑（みずき）竜が下総知県事となり、翌年の明治二年（一八六九年）一月一三日に、知県事の管轄地域が葛飾県とされ、水筑竜が初代葛飾知県事となりました。

県庁跡地の碑
流山市立中央図書館・博物館敷地内

当初、下総知県事役所は旧幕府の郡代屋敷であった薬研堀（現東京都中央区馬喰町）に設置されていましたが、葛飾県が設置された明治二年に葛飾県庁も薬研堀役所から流山市加にある田中藩本多屋敷へ移ったそうです。

東葛県はその後、明治四年（一八七一年）葛飾県を土台に印旛県が設置れ、のち明治六年（一八七三年）に統一されて現在の千葉県になりました。

千葉県になるまでの約四年間、東葛県は存在していたのです。

参考文献

『千葉県の歴史　通史編　近現代1』
千葉県史料研究財団編
２００２年

『流山市史　通史編2』
流山市立博物館
流山市教育委員会　２００５年

『流山市立博物館　常設展示図録』
流山市立博物館　２００１年

『千葉県東葛飾郡誌』
千葉県東葛飾郡教育会
１９２３年

いずれも、森の図書館の郷土コーナーで閲覧ができる資料です。流山について詳しくお調べになるときは、是非ご活用ください。

棚番号30番
流山市のコーナーに所蔵